

月刊
JMITU **アキツカ**



11月号

日本金属製造情報通信労働組合大田地域支部
セガ グループ分会 2018年発行

No.407

2018年秋闘・年末一時金要求回答

昨年同様 一時金 係数1.75

2018年秋闘・年末一時金要求に対する回答がありました。

会社「年末一時金については、係数1.75 12月7日(金)支給です。その他の要求には応じられない。」

組合「中間決算を見てとの事だが、決算を見てもそれほど悪くもなく会社が決めたBPには厳しいかもしれないが、数年前よりは良いのに係数が変わらないと言うのはおかしいではないか」
会社「セガグループで言ったら業績を支えているところは、施設、海外CSが良いが、海外CSは、何か新しいものがヒットしたのではなく過去に、国内で出していたものを

海外で販売し好調なだけ、夏

2.25、今回1.75、年間で4.0過去に比べれば良くなっている。後は期末に良ければ、決算賞与みたいなもので支給していく。」

組合「リロクラブポイント(元は弁当代)についても、当初業績が悪いかからと言って下げてきたが、ここ数年業績も回復してきているいい加減戻すべきではないか。」

会社「業績が悪くから下げたが、元に戻すとは言っていない。戻すことより、新たな福利厚生等、いろいろ検討している。最近では、各会社、社長も働き方改革を積極的に行っている。何もしていないわけではない。」



組合「大崎に移転することで本社費も上がったのではないかと、2月でSICも移転するという事だが、羽田1、2号館はどうするのか、売却するのか?」

会社「費用は上がると思うが、まとまる事で効率の良くなる所もでてくるので、すぐに成果は出ないが、長い目で見ていく、羽田1、2号館は今のところどうするか決まっていない。」

次回団体交渉

11月22日(木)

冬のボーナス過去最高
平均額95万6744円

経団連が今月16日、大手企業で支給する冬のボーナス1回目の集計を発表しました。平均妥結額は昨年冬に比べて3.49%増の95万6744円と過去最高を更新しました。

一方私達の会社はどうでしょうか? 正確な数字は、次回団体交渉でということになります。ですが、昨年も同様の係数であったので、予想はつくと思いますが、経団連発表の平均金額とはあまりにかけ離れています。
本社移転、働き方改革と大手企業と引けをとらないのだから、支給額もそれなりにして欲しいものです。

社会保障費

6年間で3.9兆円削減全世代に影響

医療・年金・介護

生活保護全世代に影響

安倍晋三政権が2013年以降の6年間に削減した社会保障費が少なくとも3兆8850億円にのぼります。

安倍政権は19年10月に消費税を10%に引き上げる口実として「お年寄りも若者も安心できる全世代型の社会保障制度」への転換を上げますが全世代を生活苦や将来不安に陥れる社会保障破壊を進めているのが実態です。

高齢化や医療の高度化で当然に増える社会保障費の自然増分を、安倍政権は毎年の予算

編成過程で大幅に削減してきました。

それとは別枠で医療や介護の法改悪を次々に行い、社会保障費を圧縮してきました。

生活保護では食費や光熱費に当たる生活扶助費を13〜15年度に1600億円(うち国費1200億円)も削減しました。18年度以降の3年間でも210億円(国費160億円)を減らそうとしています。

年金支給額も3.5%切り下げ、1兆7500億円もの給付を削減しました。

医療では70〜74歳の患者負担を1割から2割に上げ、受診抑制の影響と合わせて給

付費を4000億円抑制しました。

介護では15年に2割負担、18年に3割負担を導入し、施設の居住費・食費負担も増やしました。

多くの国民の健康で文化的な生活を持続不可能にする社会保障破壊は憲法25条が保障する生存権を侵害している上、高齢者の購買力を奪い、若者の将来不安を増幅して、消費を冷え込ませる重大要因になっています。

社会保障削減の裏で

防衛費最大へ

防衛省は2019年度予算の概算要求で、過去最大の約5兆4千億円を計上する方針を固めました。

18年度当初予算より2千億円超の増額となる見通しで、

安倍政権が編成した13年度以降、6年連続で増え、来年度も過去最大更新と言われています。

北朝鮮情勢や中国の軍備増強に備えなくてはという理由だけでなく、米朝が対話に進んでいる状況で、路線を変更しない政権はおかしい。

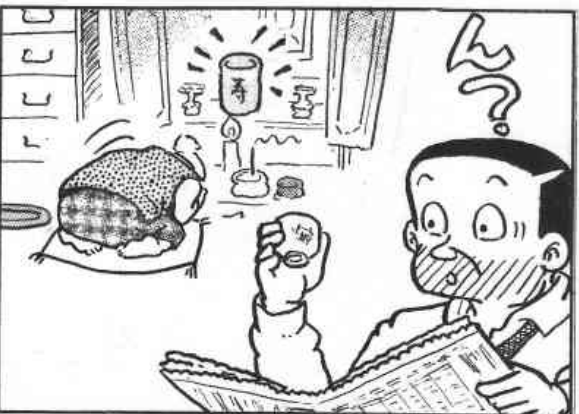
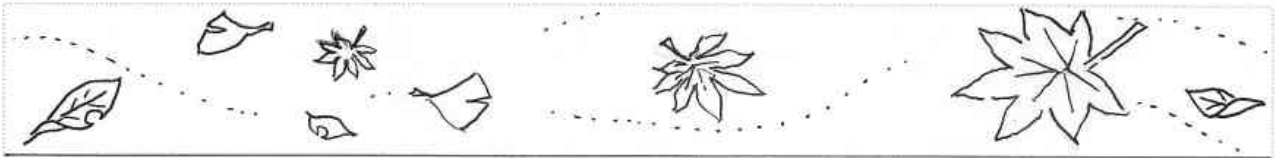
戦争をしない国がなぜ、敵機を攻撃する最新鋭戦闘機F35Aなどが必要なのか、今必要なのはそんなものより社会保障の充実に当てるべきだ。



4こま漫画

川崎よしき





ショートショート

さ迷う

仙洞田一彦

青年は希望の星だった——
などと書くと大げさすぎて、古臭く、何となく嘘っぽくなる。しかし、先のない老人にとつては、その先を引き継いでもらえるわけだから、決して大げさでも、何でも無い。自分が亡くなった後でも、仕事が出来なくなるわけだから、希望の星以外の何物でもない。

そういう青年は全くいないわけではないが、そう簡単に見つかるわけでもない。老人は何年も待って、ようやく自分の仕事を引き継いでくれそうな青年に巡り合えたのだ。

その青年が、だんだん距離

を取り始めて、老人とのつながりが切れそうであった。

離れていく原因となった状況は、青年が言うには、まったく外の理由、つまり老人のこれまでの態度にあるわけでもなく、青年が作った理由でもないということだった。

青年に訳を尋ねても、「わたしを取り巻く状況が変わったんです」としか答えなかった。しかし青年は、その後が続いて気になることも言った。

「その状況の変化というのは、わたしだけでなく、誰にでも起こることです。ということは大大きく言えば、わたしの状況の変化は、あなたの状況の変化でもあります。現にこうして、あなたにご迷惑をお掛けしています」

「わたしが手を貸して、その問題を解決できるなら手を貸そう」

老人は青年に言った。

「ありがとうございます。可能ならお願いするところです。わたしもこの状況を打ち破るために精いっぱい努力します。努力しますが、ご存知のようになわたしです。まったく自信がありません。不可能といってもいいくらいです。わたしがそんな状態ですから、あなたの手を借りるなんてできません。あきらめているわけではありませんが、不可能なんです。それが分かっているから、あなたのありがたい親切が、かえってわたしの重荷になってしまいます」

青年が答えた。

「わたしへの迷惑など、考え

なくていい。わたしのできることなど、極めて限られてはいるが」

老人は青年の言葉に答えながら、青年の状況の変化とはどんなものだろうかと推測していた。老人自身、これまでの人生で、自分の非力さをやというほど思い知らされていた。青年が不可能だと言っていた。青年が拒否した。そんなに大変なことなら、それを良いことに離れたままにした方が良いかなどという考えも湧いた。しかし、それでは何年も待った後継ぎがいなくなってしまう。若い先短いんだから、ためらっていることはない。「訳を話してくれなければ、協力できるかどうかも分からないではないか」

「それはできません」

「しかし」

「本当にありがとうございます。でも、それはわたしを追い詰めることになりません」

青年にそう言われてしまうと、それより先には一歩も進めなかった。そんな会話が何度か交わされた後、青年は老人の前に姿を現すことがなくなった。

殺されるのではないかと思うほどの酷暑の後、憂鬱な不順な天候が続き、ようやく風のない晴れの日になった。少し歩くと汗ばむくらいの日差しがある。その天候に誘い出されて、老人は青年の住むアパートに向かった。

老人は、青年の「わたしを追い詰めることになる」という言葉を忘れてはいなかった。親切の押し売りをするわけで

はない、話し相手になるだけだ——そう自分に言い聞かせた。話を聞くだけで、話を聞くだけだ。歩きながら、頭の中で繰り返していた。そう繰り返しながらも、訪問自体が青年を追い詰めることになるのではないかという危惧もあった。

あの青年なら、わたしの行動を悪く取ることはない。青年を信頼する気持ちがあれば大丈夫だ。その気持ちさえ忘れなければ、追い詰めることにはならないだろう。

そうは言っても、一方的なわたしの考えだ——と考える冷静さも老人にはあつた。

—— 追い詰める。
—— 追い詰めない。
—— 信頼することだ。
—— お前の勝手な思い込みだ。

—— 行動しなければ分らないだろう。

—— その行動自体が追い詰めることになるのだ。

老人は電車の窓の外の、移り変わる風景を見ながら考えていた。

他にも考えた。やさしい青年は、わたしのことを考えて理由を言わないのだろうかとも思った。

青年に起こった状況の変化は、実は老人の置かれている状況の変化であつて、それが青年には見えていて、わたしには見えない。それを言うのはわたしにとって酷であるし、決定的なことだから理由を言えない。

では、青年には見えていて、わたしには見えない状況の変化とは何だろうか。変化する

窓から見える風景を、目を閉じて遮断し考えたが何も見え

て来なかった。五十年という年齢差から来ているのだろうか。それとも老人が引き継いでほしいと思つている仕事に嫌気がさしたのだろうかとも思った。わたしには引き継いだ仕事を、青年が進んでやっているように見える。本当は嫌になつてしまったのかも知れない。青年はわたしをがっかりさせないために、喜んでやっているように見せかけているのだろうか。

青年の家の最寄り駅で降りた。記憶の住所を頼りに歩いた。老人の脳は考えるのを止められない。青年の名刺が貼つてあるドアの前に立った。老人はドアをノックしようと拳を作つたが——

人事評価 納得していますか？

みなさんは、会社の人事評価に納得していますか？私は納得していません。

人事評価は、評価者（管理職）によって大きく評価が変わります。会社は、評価者研修を行い、評価が公平になるよう教育をしていると言っています。そんなことはありません。やはり人が評価するのではありません。しっかりと評価する上司、ざっくり評価する上司、好き嫌いが判断に加わる上司、様々だと思います。それにより昇格しやすい職場（課・部署）、昇格しにくい職場もあると思います。

ちなみに私がいる職場は、この数年で一人しか昇格しておらず、昇格しにくい職場で

す。部署全体を見ても昇格しているのはごく一部の人のだけで、逆に降格させられている人すらいます。他の部署を見ると、定期的に昇格者が出ています。

以前、上司と面談したときに「どうすれば昇格できますか」と尋ねたことがあります。「それは私に言われても困る」と言われました。団交（LS）で昇格について尋ねると「そのうち昇格の順番がまわってくるので待っていてください」とひどい回答でした。

昇格のチャンスは、会社の定める昇格基準に達しなければ昇格推薦はないと会社は言いますが、その前に評価者が公平な評価をしてくれないければ、いくら本人が頑張っても昇格基準にすら達しません。昇格基準に達したとしても、その先は評価者である課長や

部長が役員へ推薦してくれないければチャンスはきません。昇格のチャンスがきたとしてもその先には昇格試験があります。

人事評価は、評価者で大きく変わります。みなさんは正当な評価を受けていますか。もしも自分の評価や、周りで一緒に働いている仲間の評価が低いと感じたら、上司に評価についてしっかりと確認をしてください。納得できる回答がなければ、それは公平な評価がされていません。

今の人事制度は、同じ資格に長く滞留すると評価給が止まります。評価給が止まれば、その先の生涯年収が大きく減り、将来の生活に大きく影響が出ます。

人事評価は、私たち労働者の人生に大きく影響を与えるものです。

労働相談、ご意見、ご質問は、下記にお寄せください。

JMITU 本部 TEL 03-5961-5601 : FAX 03-5961-5603

ホームページ <http://www.jmiu.com/>

JMITU 大田地域支部 TEL 03-3734-3502 : FAX 03-3734-3534

ホームページ <http://www6.plala.or.jp/JMIUOOTA/>

セガグループ分会ホームページ <http://www.jmiusega.com/>